

保健だより

2015年9月1日(火)発行

9月になり、真夏の暑さもそろそろ落ち着いてきました。少しずつ季節が進んでいるようです。相模原市内では夏かぜの一つである手足口病の流行が続いているようです。気をつけましょう。

〒252-0326 相模原市
南区新戸5195-4
サンガこども園
電話046-255-0148



9月1日は防災の日です

地震、台風などに備え、非常用品をそろえておきましょう。
水・保存食・ナイフ・タオル・救急用品・ラジオ・懐中電灯・ライターなどがそろっているか点検しておきましょう。

～救急用品の点検をしましょう。～

ばんそうこう・ガーゼ・包帯・三角巾・脱脂綿・綿棒・ハサミ・体温計・毛抜きピンセット・外傷用薬品などがそろっているか点検しましょう。



9月9日は救急の日です

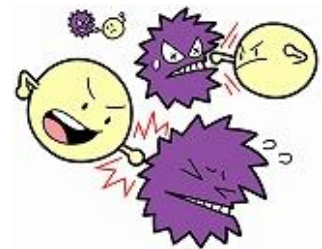
子どもの事故はちょっとした油断でおこってしまいます。特に夏は親も子も開放的になり、人が大勢いる場所では、誰かが見ているだろうと思ったりします。そこに落とし穴があります。日々の生活の身の回りに注意してお子さんの事故を未然に防ぎましょう。



抗菌グッズについて

「不潔なものはダメ、自分のまわりはすべてきたない・・・」などと神経質になる親御さんのお気持ちは、言葉にしなくてもお子さんに伝わってしまうものです。このような超清潔志向が多くの抗菌グッズを生み出しています。防臭、防カビ、防虫効果をプラスして加工したものだそうですが、商品に抗菌剤の成分は表示されていない場合があります。たいした効果がないのに売られているのは、新しいものが好きで、きれい好きな人なら絶対、飛びつくだろうと業者が確信しているからです。トイレ用品、家電、家庭雑貨、衣類までたくさんの商品が出回り、もはや抗菌加工なしでは商品が売りにくいと言えるほどです。

このような「抗菌グッズ」は、菌を強くして、人間を弱くする（抵抗力を弱める）こととなります。私たちの生活環境は、抗生物質や「抗菌グッズ」の多用により、強力になった病原菌が人間を襲ってきているのです。「抗菌グッズ」とか抗生物質の多用は控えて、自分自身の抵抗力、免疫力をつけることが大切です。



手足口病の流行と登園基準

手足口病がこの夏、大流行しています。手足口病の登園基準については日本小児科学会が一九九三年に見解を出していて、それによると、この病気は普通の伝染病とは異なり、患者を隔離してもその流行を防げないことが明らかで、また同時に、この病気をうつされても症状が出ない人が多いことも分かりました。そして登園の決定は患者の回復状態を診て主治医が判断するとしています。

多くのお医者さんは、お子さんの熱がさがっても、口内炎で食事が取れないと保育に支障があり、自宅静養が良いと考えられているようです。つまり、手足口病はその伝染性は考えずに、手足のぶつぶつが1、2週間残っていても、発熱と口内炎がなければ登園できると判断されています。